※令和４年度以降入学生用

学校番号	１００５

令和８年度　国語科

教科	国語	科目	（学）エンカレッジメント国語Ｂ	単位数	１単位	年次	集中講座（2・3年次）
使用教科書	なし						
副教材等	完全マスター古典文法　（第一学習社）　自主教材						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・この講座では、文語のきまりとして１年次に身につけておきたい内容を身につけ、古典分野の基礎を身につけることを目標とします。
・世界的に有名な『源氏物語』に使われている語彙の７割は、現代日本語と共通の語彙であるという調査があります。１０００年も前に書かれた文章を、プロでもなんでもない高校生が僅かな手ほどきを受けただけで（ある程度）読むことができるというのは、世界的にも希有な日本語・文化の特徴です。１０００年の時を超えて、人間は同じようなことを感じ、考えるということを、ぜひ味わってみてください。

２　学習の到達目標

（１）日本特有の言語文化のあり方に対する理解を深めることができるようにする。
（２）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させる。
（３）我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	古典を通じて日本語や日本文化への関心を深め、自身の経験や周囲の環境と関連付けて考えを広げ深めようとしている。また、進んで読書に親しみ、自身の身につけてきた言語の世界を更に深めようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
	古文の言葉のきまりについて、基礎的なことを学ぶ ［教材］ 宇治拾遺物語「児のそら寝」	a：古文を読むために必要な基礎的な文法事項や、古文特有の表現について理解している。 b[読]：「読むこと」において、作品の内容を通じて、自分のものの見方、感じ方を深めることができている c：すすんで文語のきまりについて理解しようとしている。	ノート	ノート	小テスト ノート
	漢文訓読の基礎を学ぶ ［教材］ 史記「鶏鳴狗盗」	a：漢文訓読の基礎的なきまりについて理解している。 b[読]：「読むこと」において、漢文であることを踏まえ、内容や構成、展開について叙述をもとに的確に捉えている。 c：漢文の言葉と現代の言葉とのつながりについて進んで理解し、学習課題にそって、受け継がれてきた表現技法などについて調べようとしている。	ノート	ノート	小テスト ノート
	歌物語を味わう ［教材］ 伊勢物語「東下り」	a：作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 b[書]：「書くこと」において、自分の思いが効果的に伝わるよう、文体や描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 c：和歌や和歌を中心とした文化のあり方に進んで親しもうとし、感じ考えたことを自分の言葉で文章にしようとしている。	定期考査 ノート ワークシート	定期考査 ノート ワークシート	小テスト ノート ワークシート
	漢詩について学ぶ ［教材］ 漢詩「春暁」「春望」	a：漢詩のきまりや特徴について理解している b[読]：「読むこと」において、異文化かつ異なる時代の作品の理解・解釈を通じて、自分自身のものの見方や感じ方にを見直すことができている。 c：他国の詩であると敬遠せず、日本語文化の大事な一部分として積極的に学ぼうとしている。	ノート	ノート	小テスト ノート
	歴史的名文を暗誦する ［教材］ 自主教材（平家物語冒頭）	a：平家物語が口承文学を元としていることを理解し、語彙や文法事項を通じて内容を理解することができている。 b[読]：「読むこと」において、作品に現れているものの見方、感じ方を理解した上で、自身の感じ方について振り返ることができている。 c：作品独特のリズムを味わいながら暗誦に積極的に取り組んでいる。	ノート ワーク	ノート ワーク	小テスト ノート ワーク

※表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　　）時間

・書くこと　…　（　１０　）時間

・読むこと　…　（　２５　）時間